

## 全自動尿中有形成分分析装置による穿刺液中核細胞数測定の見直し

◎當銘 高明<sup>1)</sup>、金城 和美<sup>1)</sup>、服部 琴ノ<sup>1)</sup>、又吉 和哉<sup>1)</sup>、前田 士郎<sup>1)</sup>  
琉球大学病院<sup>1)</sup>

【はじめに】全自動尿中有形成分分析装置 UF-5000（システムクス、以下UF-5000）はフローサイトメトリー法により尿中の細胞成分等を計測する機器である。また、研究用項目として体液（Body Fluid：BF）測定モードが搭載されており、穿刺液中の有核細胞数および単核球数、多形核球数などを計測することが可能である。今回、UF-5000のBFモードにおける有核細胞数計測能を評価したので報告する。

【対象および方法】2020年8月から2021年6月までに当院の一般検査室に提出された穿刺液126件（髄液67件、腹水30件、胸水29件）を対象とした。参照法は、Fuchs-Rosenthal計算盤を用いた目視法とした。

検討項目は有核細胞数、単核球数、多形核球数とし、それぞれ検体種別・有核細胞数別に評価を行った。

【結果】全検体を対象とした目視法との相関係数（ $r$ ）は、有核細胞数0.987、単核球数0.988、多形核球数0.961であった。検体種別では、髄液;有核細胞数0.993、単核球数0.996、多形核球数0.993、腹水;有核細胞数0.978、単核球数0.725、多形核球数0.955、胸水;有核細胞数0.986、単核球数

0.989、多形核球数0.965であった。また目視法による有核細胞数別で見ると、10個/ $\mu\text{L}$ 以下（ $n=52$ ）の検体では、有核細胞数0.857、単核球数0.815、多形核球数0.287、11-100個/ $\mu\text{L}$ （ $n=26$ ）では有核細胞数0.933、単核球数0.887、多形核球数0.411、101-1000個/ $\mu\text{L}$ （ $n=33$ ）では、有核細胞数0.952、単核球数0.848、多形核球数0.654、1000個/ $\mu\text{L}$ 以上（ $n=16$ ）では、有核細胞数0.983、単核球数0.989、多形核球数0.964であった。

【まとめ】検体種別では、髄液および胸水ではいずれの比較においても $r>0.95$ であり良好と考えられたが、腹水の単核球数は $r=0.725$ と他の検体に比べ劣る結果であった。有核細胞数別では、3項目とも細胞数が少ない検体において、細胞数が多い検体と比較して目視法との相関は不良であり、特に多形核球数においてその傾向が顕著であった。以上のことより、UF-5000を用いて穿刺液中の白血球数を計測する際には、細胞数が少ない検体や多核球数においては注意が必要と考えられる。

連絡先：098-895-3331（内線3336）